

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課事業
「北海道特別支援学校地域連携・協働推進事業」報告書

学校名 北海道美唄養護学校

1 目的

- ・生徒自身が災害時に使用する防災用品の使用方法に慣れるとともに、いざというときに自分の身を守るために必要な知識・技能を習得する。（1日防災学校の実施）

2 取組概要

(1) 実施学年、人数

- ・高等部第1学年 8名
- ・高等部第2学年 20名
- ・高等部第3学年 9名 計37名

(2) 連携先

- ・美唄市役所総務部危機管理対策室
- ・札幌管区気象台気象防災部地域防災推進課

(3) 期日及び内容

期日	主な内容
令和5年4月下旬	○空知教育局へ実施計画書の提出
令和5年6月～7月	○札幌管区気象台及び美唄市役所との打合せ ・防災講話に関して、受講する生徒の実態を伝え、内容を確認 ・ダンボールベッドの組み立て体験に係る必要数の確認 等
令和5年8月24日	①地震及び火災発生を想定した避難訓練を実施（全校児童生徒対象） ・美唄市で震度5の地震が発生し、校舎が損壊 ・児童生徒の安全確保が必要なため、屋外へ避難 ②札幌管区気象台職員による防災講話 ・津波の発生する仕組み ・河川の氾濫による水害などについての説明を受けた。 

	③美唄市役所防災担当職員によるダンボールベッドの組み立て体験   生徒の協力によるベッドの組み立て ベッドの寝心地の確認
令和5年9月～10月	○空知教育局へ実施報告書の提出 ○空知振興局地域創生部へ活動の様子の写真を提供
令和6年2月	○空知管内学校安全推進会議において札幌管区気象台職員による講話があり、本校と気象台での連携した取組を紹介いただいた。

3 成果

- 気象台や市役所などの外部機関の職員を招聘し、専門的な知見に基づく話を聞いたり、実際に使われるダンボールベッドの組み立てを行ったりすることができ、校内の職員のみで指導を行うよりも効果的な指導となった。
- ダンボールベッドの組み立て体験について、各学年で1台ずつの組み立て体験を実施した。いずれの学年においても、生徒が協力しながら組み立てることや完成したベッドに横になり寝心地を確かめる経験ができた。

4 今後に向けて

- 本校は美唄市から広域避難所としての指定を受けており、災害発生時の避難所運営に関する業務の確認や備蓄品の設置などの確認を数年毎の頻度で行っているが、本校の教職員の人事異動による入れ替えなどを考慮すると、毎年行っていく必要がある。
- 1日防災学校の取組の中で、近隣の福祉施設と連携した取組（合同避難訓練など）を視野に入れた検討を行い、取組を継続していく。